

令和7年3月31日発行

先驅者の集い

題字 故 野村義一

編集發行人

公益社団法人 北海道アイヌ協会

理事長 大川 勝

札幌市中央区北2条西7丁目

北海道立アイヌ総合センター内

TEL 011 (221) 0462

F A X 011 (221) 0672

URL <http://www.ainu-assn.or.jp/>



傳統部門 最優秀賞

タンパクオブ (タバコ入れ) 岡本朋也

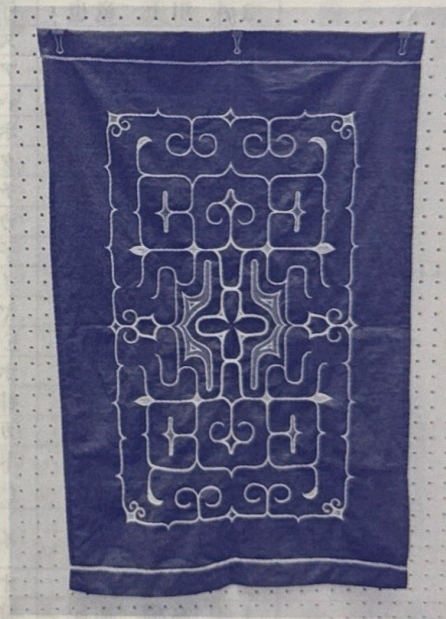
第 58 回北海道アイヌ伝統工芸展

一般部門

最優秀賞

チチリのタペストリー

石井彩花



■ | ■ | ■ | ■ | ■ | 記事の掲載内容 | ■ | ■ | ■ | ■ | ■

第二十八回アイヌ語弁論大会	2頁	第五十八回北海道アイヌ伝統工芸展	5頁
アイヌ文化賞・アイヌ文化奨励賞	3頁	北海道外に居住するアイヌの人々のための奨学金制度について	7頁
札幌医科大学におけるイチャルパ	4頁	青年・女性の集い	8頁
慰霊施設におけるアイヌ遺骨等に対する鎮魂式、カムイノミ・イチャルパ	4頁	温かいご支援に感謝	8頁
古式舞踊交流発表会	5頁	事務局だより	8頁

令和6年度 第28回アイヌ語弁論大会～イタカンロー～ 受賞者一覧

	最優秀賞	優秀賞	
子どもの部	藤戸 穂伊	新倉和果	新倉和苗
大人の部 口承文芸部門	原田啓介	平村晴美	結城 陸
大人の部 弁論部門	楠本直嗣	高橋祐紀	

令和六年十二月十四日(土)、北海道立道民活動センターかでの2・7アスビックホールにおいて、第二十八回アイヌ語弁論大会「イタカンロー」が公益財団法人アイヌ民族文化財団の主催で開催されました。北海道アイヌ協会はこの事業を後援しております。

この大会は、アイヌ語を学んでいる人びとの学習成果を発表する場として、アイヌ語による弁論大会を開催し、その学習意欲の向上を図るとともに、開催地域の人びとにアイヌ語を直接耳にする機会を設け、アイヌ語の普及を図ろうとする事業です。

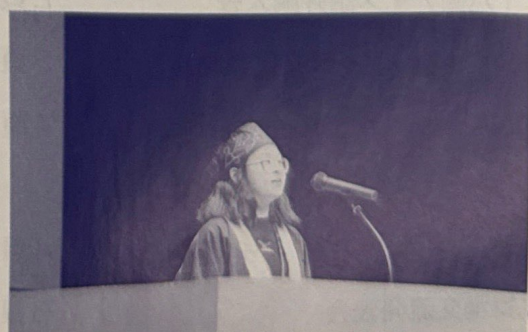
今回の参加者は、子どもの部が八名、大人の部の口承文芸部門が二十名、弁論部門が四名、口演部門が三名、合計三十三名の方が出場され、日頃学んだ成果を発表し、厳正なる審査の結果に基づき、審査委員長より受賞者が発表されました。審査結果については、次のとおりです。

第二十八回アイヌ語弁論大会

令和6年度 第28回アイヌ語弁論大会～イタカンロー～ 出場者一覧

(発表順・敬称略)

部 門	No.	氏 名	演 目
子どもの部	1	宇佐 恵将	イワンレクトゥシベ(六つ首の化け物)
	2	宇佐 陽莉	カント オッタ カシケ(空の上の雪かき)
	3	小川 神威	森竹竹市ウエベケレ あの世界に行った話
	4	中島 丈	早口言葉 ～オンネパシクル～
	5	新倉 和実	コン ル カタ(こおりのうえ)
	6	新倉 和果	祖父と「マリモの唄」
	7	新倉 和苗	コンル カ タ(サマイクルのイム)
	8	藤戸 穂伊	チロンヌフ アイヌ コチャランケ(きつねのチャランケ)
口承文芸部門	1	一瀬 雄太	兎が自ら歌った謡「サンバヤ テレケ」
	2	植松 由貴	エヤミ パシクル(カケスとカラス)
	3	川上 竜也	仔熊がシルンクルのふりをしてオタスツビとを訪ねる物語
	4	北澤 たみ	スズメのカムイ
	5	鬼頭さおり	アトゥサ チロンヌフ(裸のキツネ)
	6	工藤 小夜	a=eatuynomi menoko(生贄にされた娘)
	7	熊谷 厚子	ホロケウ コタンコロクル(オオカミ神と村おさ)
	8	地本彩花羽	タノタ フレフレ(この砂赤い赤い)
	9	東儀 里絵	チロンヌフ アイヌ コチャランケ(きつねのチャランケ)
	10	豊田 礼子	カンナカムイ
	11	新倉 久美	子犬たち
	12	新倉 貴明	イセボ トノ イソイタク(兎の大将の自叙)
	13	根本 幸子	ヤイサマネナ「恋しい彼氏にふられた女の歌」
	14	橋本 美佳	ETASPE KOMUY(トドのシラミ取り)
	15	平村 晴美	ホロケウ コタンコロクル(オオカミ神と村おさ)
	16	光野 智子	蛙が自らを歌った謡「トーロロハンロクハンロク」
	17	結城 陸	カララク・トノ イ・カ・オピュキ(さきはそ鳥がわたしを助けた)
	18	原田 啓介	トイトイ ウシ カム アサハ イエレス (土のついた肉で私は育てられた)
	19	門別こずえと 吉村圭一郎	イパカリフ チロンヌフ(狐の妖怪)
	20	米澤 諒	オタコチャンチャン(口輪を鳴らして)
弁論部門	1	高橋 祐紀	狩りに行って助けられた時の話
	2	船島 美湖	継いだ言葉 伝える声 itak k=ewkote sonko=ye hawe
	3	楠本 直嗣	「ク リムセ」弓の踊り
口演の部	1	鈴木 昭	ムックリの音色に魅せられて



令和六年度

アイヌ文化賞・奨励賞

アイヌ文化賞

加藤 忠

北海道白老町在住



昭和六十三年、当時ウタリ協会理事長だった野村義一氏の依頼により、白老町ウタリ生活指導員に就任。以来十八年間生活指導員を務め、地域のアイヌの様々な困りごとに対応した。

相談員業務の傍ら、平成元年にはアイヌについて少しでも町民や道民に理解してもらうと「チェブ祭」を企画。以降チェブ祭は白老を代表する祭りとして現在も鮭漁の始まる秋に開催されている。

平成十六年に北海道アイヌ協会の理事長に就任し、アイヌ当事者組織の長としてアイヌ文化復興・発展のために尽力した。また、同時期にはアイヌ古式舞踊連合保存会の会長も務めた。

アイヌ文化奨励賞

大川 康

北海道新ひだか町在住



幼少期からアイヌの家庭でアイヌ文化全般に触れて生活してきた経験を活かし、地元の新しいだかアイヌ協

会が実施するイチヤルパや武四郎まつり、シヤクシヤイン法要祭等で新ひだかにおいて後進の指導にあたるなど、伝統文化活動の普及や啓発に尽力している。

その経験と知識は現在所属する新ひだかアイヌ協会をはじめ、静内地方のアイヌ文化継承においても欠かすことが出来ないものであり、現在も積極的にアイヌ文化伝承活動に取り組んでいる。

アイヌ文化奨励賞

佐々木 義一

北海道むかわ町在住



平成十一年に穂別町(現・むかわ町)のアイヌ生活相談員として地域のアイヌ住人の相談対応に携わるとともに、碑前祭やアシリパカムイノミ等の地元のアイヌ関連行事の実施に尽力する。

平成十八年に北海道ウタリ協会の鶴川支部と穂別支部が合併したことから、鶴川アイヌ文化伝承保存会に入会し、保存会メンバーとして各地域で舞踊公演を行う。

また、平成二十九年からむかわ町にて行われるシヤモカムイノミ、イチヤルパなどの儀式において祭司を務めるほか、北海道教育委員会主催のアイヌ民俗文化財講座では舞踊講師を務めるなど、アイヌ文化の伝承者として活躍している。

アイヌ文化奨励賞

杉村 忍

北海道札幌市在住



旭川にて飲食店や民芸品店などを経営していたが、昭和五十七年に伝統舞踊の公演に参加するために上川町振興公社に就職し、アイヌ文化の普及に尽力した。

現在まで取り組み続けているトゥムシ(木鈴)彫りの技術は祖父の故川村ハクマクルより受け継ぎ、その後は母の故川村ウメ、姉の伊澤修子の下で本格的に学ぶ。

札幌アイヌ協会に入会後もアイヌ文化に関する知識やアイヌ工芸の木彫、刺繍、編みの技術を磨き、生み出された作品の数々は工芸品コンテストにおいて多くの実績を残している。

アイヌ文化奨励賞

平 良 智 子

北海道釧路市在住



十九歳より古式舞踊の踊り手として活動し、地元だけでなく各地のアイヌ古式舞踊公演に出演しているほか、アイヌ語や口承文芸の伝承活動にも取り組み、祖母・四宅ヤエ嬢のヤイサマやオイナをフエステイバルなどで披露している。語られた物語はアニメ化もされている。

また、民族衣装をはじめとする刺繍作品の制作、文様のデザインにも取り組んでおり、各地での講演、刺繍講座の講師も務めている。

アイヌ文化奨励賞

豊田 礼子

北海道平取町在住



故木幡サチ子氏、萱野れい子氏らに師事し、長きにわたってアイヌの伝統的な舞踊やアイヌ語の振興・発展に寄与している。

平成二十五年にはアイヌ民族の有形文化の伝承を図る目的で「シリムカ文化研究会」の結成に携わり、事務局長を務める。

二風谷アイヌ語教室ではカムイユカラを学び、アイヌ語弁論大会(財団事業)では口承文芸部門にて優秀賞を二度受賞している。

また、二風谷コタン内のチセで行われている「ユカラと語り部」に語り部や聞き手として積極的に参加し、アイヌ文化の普及に尽力している。

アイヌ文化奨励賞

長谷川 邦彦

北海道白老町在住



昭和四十五年より白老民族芸能保存会へ入会し、白老に伝承されるアイヌ古式舞踊をはじめとしたさまざまなアイヌ文化の伝承活動に尽力。

平成二十四年より保存会会長に就任し、白老陣屋まつり、ポロト休養林のアイヌ文化交流会などの地元イベントを中心にアイヌ古式舞踊を披露してき

た。

令和五年には豊田市コンサートホール能楽堂において「能楽堂でみる日本の伝統芸能」に出演したほか、ウポポイにおけるアイヌ伝統舞踊披露にも積極的に出演するなど、多くの人々へ舞踊を広めるため活動している。

アイヌ文化奨励賞

林 明子

北海道登別市在住



登別アイヌ協会に所属し、協会の活動活性化に尽力。中心的人物として協会活動に取り組む。

平成五年に登別市教育委員会主催の国際先住民年記念講演会において古式舞踊を披露し、翌年には「登別市アイヌ古式舞踊保存会」を発足させ、現在までその中心的人物として運営にあっている。

また、元北海道ウタリ協会副理事長であった故上武やす子氏が主催していた刺繍教室を支え、アイヌ語教室においては助手を務めるなど登別市でのアイヌ文化発展に大いに寄与してきた。

アイヌ文化奨励賞

森 田 薫

北海道釧路市在住



中学校を卒業後、阿寒湖アイヌコタンの民芸店で働きながらアイヌ文化を学ぶ。

故藤戸竹喜氏の元で木彫りに打ち込む傍らで、阿寒アイヌ協会の運営に携わり、阿寒ユーカーラ座の一員としても各地の公演に多数出演している。

阿寒湖アイヌシアターイコロにて巨大パスイを制作したほか、約5メートルの木彫り舟である「カムイシンタ」を制作し、「阿寒悠久の里鶴雅」にて展示された。

アイヌ文化活動アドバイザー（財団事業）などでの木彫り講師の活動や、北海道教育大学釧路校における美術教育の教育開発を通して地域の子供・若者へ文化を伝える活動に積極的に取り組んできた。

令和6年度（第28回）
アイヌ文化賞・アイヌ文化奨励賞 被表彰者一覧
[50音順 敬称略]

受賞区分	名 前	居住地
アイヌ文化賞 アイヌ文化奨励賞 (個人8名)	加 藤 忠	白 老 町
	大 川 巖	新 ひ だ か 町
	佐 々 木 義 一	む か わ 町
	杉 村 忍	札 幌 市
	平 良 智 子	釧 路 市
	豊 田 礼 子	平 取 町
	長 谷 川 邦 彦	白 老 町
	林 明 子	登 別 市
	森 田 薫	釧 路 市

札幌医科大学におけるイチャルパ

十月九日（水）、令和六年度札幌医科大学におけるイチャルパを開催しました。

儀式を始める前に祭司である札幌アイヌ協会共同代表の結城幸司様が、大学内の先住民遺骨保管室にて慰霊の言葉を捧げ、午後からは札幌医科大学敷地内に設置した特設会場にてカムイノミ・イチャルパを執り行いました。札幌医科大学からは山下敏彦学長をはじめ、関係者の皆様にご参列いただき、共に衷心より鎮魂の意を表しました。



慰霊施設におけるアイヌ遺骨等に対する鎮魂式、カムイノミ・イチャルパ



北海道大学 山本文彦様

令和六年十月十三日、白老町の太平洋を望む高台に建設された慰霊施設において、六回目となる鎮魂式、カムイノミ・イチャルパを実施しました。現在、この慰霊施設には、全国の大学や博物館に保管されていたものうち、地域に返還するものなどを除いた、一六五一体が安置されています。

今年は関係者や同胞の皆様、約百名のご参列をいただきました。墓所の前で鎮魂式を行い、黙祷、献花に続き、主催者を代表し理事長から、先祖の遺骨、副葬品の返還については、先住民族政策の中心的な課題として位置づけ、国際人権に倣い、人間の尊厳に関わることであり、過去の経緯に照らし国の責任において対応を行っていただくこと、各関係大学には、どのような背景や動機の下で収集に至ったのか、研究の成果はどのようにアイヌに還元されたのかなど、当協会としても、引き続き、誠意ある対応を求めて参る所存であることなど挨拶をしました。

その後、全国十二大学を代表し北海道大学理事・副学長の山本文彦様、博物館関係者を代表して市立函館博物館館長熊谷正様からご挨拶をいただきました。心から御礼申し上げます。鎮魂式の終了後、儀礼施設で、新ひだかアイヌ協会や白老民族芸能保存会等の協力のもとに、アイヌの伝統に則り厳かにカムイノミ・イチャルパを執り行いました。

古式舞踊交流発表会を開催

北海道アイヌ古式舞踊連合保存会が毎年行っているアイヌ古式舞踊交流発表会を、令和六年十一月十六日(土)に阿寒湖アイヌシアターイコロにおいて開催しました。

この事業は、各地域でアイヌ古式舞踊をはじめとしたアイヌ文化の保存活動に熱心に取り組んでいる保存会に呼びかけて交流する機会を設け、互いに懇親を深めながら一般の方々にもアイヌ古式舞踊を観ていただく事業で、公益財団法人アイヌ民族文化財団の国内文化交流助成事業を活用して実施しました。

本年度は、札幌ウポポ保存会、平取アイヌ文化保存会、阿寒アイヌ民族文化保存会の三団体が参加し、観光客や地元関係者の皆様が見守る中で、各地域にて伝承されてきた踊りを数曲ずつ披露しました。

今回は古老から青年層、子供と幅広い年代の参加があり、せっかくの交流の機会ということで保存会同士の懇親を深めつつ、子供達も楽しそうに踊る姿が印象的でした。最後には出演者全員でポロリムセ(輪踊り)を踊り、舞台の幕を閉じました。

第五十八回
北海道アイヌ伝統工芸展

二月六日(木)から十日(月)の五日間、札幌市のかでる2・7ビル一階展示ホールにおいて、第五十八回目となる北海道アイヌ伝統工芸展を開催しました。

今回の出品は十地区協会から伝統工芸品部門二十五点、一般工芸品部門十二点、合計三十七点の出品がありました。

二月五日(水)に審査会を行い、伝統部門、一般部門ともに審査基準に照らしながら厳正な審査の上、以下のとおり各入賞作品を選定しました。

〈審査委員〉

元道立近代美術館学芸部長 浅川 泰
北海道立総合研究機構主幹 万城目 聡
北海道博物館学芸主査 大坂 拓
優秀工芸師 貝澤 徹
優秀工芸師 堀 悦子
優秀工芸師 岡田 育子
優秀工芸師

○浅川審査委員長講評

各審査委員のコメント等を合わせて、全体の感想を申し上げます。
出品点数について、前回と比較すると、一般部門が大きく減っていて、工芸文化の振興と、商品として製作・販売につなげていくという、工芸展

の趣旨からも残念なこと。伝統部門は、ほぼ同数で、刺しゅうや切伏せ、置き布等の技法を用いた衣装等の服装品、主に木彫による木工品、一般部門でも、伝統的な技法を用いた品物は、いずれも、モノづくりへの取り組みという点で評価でき、また仕上がりもよい。伝統部門での製作にあたって、材料と形式、かつて多くは、どんな材料を使い、どのような仕立て、作りであったのか。刺しゅうにしても、自らのデザインとする工夫が必要です。材料と形式、それに技術、これらの要素が「伝統」であるか、特に地域の伝統にふさわしいか。「デザイン」は、モノづくりの基本(使いやすさ・強さ・美しさ)を形にすること。「デザイン」と「手仕事」をふまえて「アイヌ工芸」の魅力づくりをすすめていくことが望ましいと考えます。

「一般工芸品部門」について、刺しゅう・切伏せ・置き布、エムシアツを使った衣装、タペストリー、テールセンタール、バッグ、小物、アットウシの帯地等の出品がありました。工芸は、単に技法や形式だけでなく、材料の加工の上に、柄や装飾(色合い)との総合です。カタログを見る前に、まず良いモノをみて、自分で工夫すること。その点が評価の基準になります。

最優秀賞の石井彩花さんの「チヂリのタペストリー」は、紋様、素材と技

法(布と刺繍)のとり合わせが、繊細で美しく、洗練された、優れた工芸品として評価できます。次に優秀賞の藤田由貴さんの「八寸帯(アットウシ織り)」は、帯地の柄が緋地を思わせ、地の素朴な色合いをモダンなセンスで生かしています。アットウシの魅力を高める、意欲的な仕事です。優秀賞の長縄由加利さんの「タペストリー」は、刺しゅうによる紋様(チヂリ)自体が見事な出来栄で、これも第一級の手仕事。奨励賞の杉村忍さんの「エムシアッ編みキーホルダー」と西山亜美さんの「スマホケース」は、念入りの手仕事。製品としても魅力的。アイデア、デザインも良い。モノづくりのセンスに注目しました。次回も期待できます。

「伝統工芸品部門」について刺しゅう・切伏せ・置き布を使った伝統衣装・装身具、木彫による道具類や楽器等の伝統木工の出品がありました。博物館の所蔵品などを参考にし、地域的な特色(技法、材料、形態、その組み合わせ)を習得した上で、制作することが評価につながっていると思います。現代の材料から古いものも味わい、良さをどう引き出すか、よく考えて製作に入ること。

最優秀賞の岡本朋也さんの「タンバクオプ(タバコ入れ)一式」、それから優秀賞の居橋朗さんの「マキリ」は、木彫り紋様の入念な細工が見られます。アイヌ工芸といえは、この木

工とアットウシ(オヒョウ樹皮の織物)・木綿布に刺繍したものなど、伝統を受け継ぐ、代表的な工芸分野。優秀賞の貝澤すみれさんの「チカルカルペ」は、木綿の置き布と木綿糸の刺繍による、手の細かい、美しい紋様の木綿衣。アットウシ衣が原点になっていると思います。岡本さん、居橋さん、二人の木工は、入念な木彫り紋様を特徴としています。木彫りに対する、細やかで鋭い感性があります。この他にイタ(お盆)やタシロ(山刀)、トゥムシコッパスイ(木鈴付きの箸)等、彫刻的な木工。チカルカルペ、チヂリ、カバラミプと、アイヌの伝統的な衣装も、丹念な手仕事でした。奨励賞の石井彩花さんの「カバラミプ」と菊田秀子さんの「切伏木綿衣」は、刺しゅうと切伏せ(布)が一体となった、シンプルな色柄が魅力。後者は、前回(昨年)と同じタイトル、「合わせ布(裂)」と言ったのは、色違いの布(裂)を切伏せや合わせて使うと、一層斬新な色模様がでるから。入選作ではありませんが、菊田さんのもう一点「切伏木綿衣」は、カバラミプの典型(日高)を知る上でも参考になり、これら三点を較べてみると、ルウンベの布切れの使い方の系譜の二つのスタイルが明確になります。後者の方は、前者の白布を活かした、端正な構成の《カバラミプ》と対照的で、二風谷のイタの大らかなモレウと同じく、デザイン



(装飾)としての魅力を感じます。「合わせ布(裂)」の彩りが引き立つカバラミプは、チカルカルペの伝統と違い、アルス・ノヴァ(新芸術)であり、このアート(技法)の名手が、これからも出てくるのでは。「カバラミプ」という名称の方がよいでしょう。

終りに「美しさ」について。アットウシ(樹皮衣)からチカルカルペ、ルウンベ(木綿衣)、チヂリ(刺繍衣)へと展開し、木綿衣の方は、ルウンベからカバラミプ(日高・浦河)、刺繍衣の方は、日高・道北・道東で独自の様式が生まれたものでは。いずれも各衣装に、アイヌ様式の美しさがあります。「デザイン」の基本の中でも「美しさ」がとても難しい、「手仕事」の「美しさ」は、さらに難しい、上手でもない、見た目の良さでもない。個人を超えて、共通のものとなつて、伝わっていくものが伝統。多くが受け継いできた感性(ものの見方、感じ方)が美しいのです。

第58回北海道アイヌ伝統工芸展受賞者一覧

賞	伝統工芸品部門			一般工芸品部門		
	作品名	地区名	氏名	作品名	地区名	氏名
最優秀賞(北海道知事賞)	タンバクオプ(タバコ入れ)	平取	岡本朋也	チヂリのタペストリー	札幌	石井彩花
優秀賞(北海道議会議長賞)				八寸帯(アットウシ織り)	平取	藤田由貴
優秀賞(北海道教育委員会教育長賞)	マキリ	札幌	居橋朗			
優秀賞(かでる賞)	チカルカルペ	平取	貝澤すみれ	タペストリー	札幌	長縄由加利
奨励賞	カバラミプの着物	札幌	石井彩花	チヂリの小箱	長万部	桑原由恵
奨励賞	タシロ	平取	平村太幹	エムシアッ編みキーホルダー	札幌	杉村忍
奨励賞	トゥムシコッパスイ	札幌	吉村政彦	バッグ	白老	吉国幸子
奨励賞	イタ	平取	西山涼	スマホケース	標津	西山亜美
奨励賞	切伏木綿衣	伊達	菊田秀子			
奨励賞	脚絆	阿寒	毛房千夏			

北海道外に居住する

アイヌの人々のための

奨学金制度について

北海道外に居住するアイヌの人々が、大学等に進学・在学する場合、平成二十六年四月から無利子の奨学金を日本学生支援機構から借り受けることができるようになりました。

アイヌの人々のための奨学金の申込に当たっては、北海道アイヌ協会が発行する認定書が必要となります。認定書に関する下記について以下に説明します。

奨学金取得までの流れ

(大学等入学後)奨学金説明会(大学)
↓奨学金申込のための資料準備(認定書取得) ↓奨学金申込(認定書添付)
↓大学・日本学生支援機構の審査 ↓奨学金貸与決定通知 ↓奨学金振込

認定書取得までの流れ

申請書の入手 ↓ 申請書の作成(戸籍謄本等の入手等) ↓ 申請書の提出 ↓ 北海道アイヌ協会の審査 ↓ 認定書の発行

申請書の入手

北海道アイヌ協会のホームページから入手できます。

ⅴ申請書の様式はこちらから

(<http://www.ainu-assn.or.jp/>)

また、アイヌ民族文化財団アイヌ文化交流センター(東京)でも入手できます。

〒111-0041

東京都台東区元浅草三丁目七番一号
住友不動産上野御徒町ビル三階
☎(03)五八三〇一七五四七

申請書の作成

○申請書には家系図、戸籍謄本等の添付資料が必要です。

◆家系図

・アイヌの血族等であることが確認できるよう作成してください。

◆戸籍謄本、除籍謄本等

・アイヌの血族等であることが確認できるよう、先祖の除籍謄本等については可能な限り取得してください。

・戸籍謄本、除籍謄本等は、本籍のある市区町村が管理しています。先祖が居住していた市区町村から取得してください。
・除籍謄本を取得できない場合、アイヌの血族であることを示す資料が必要となります。

戸籍謄本、除籍謄本等

・戸籍は、本籍や家族関係が記載された公文書で、戸籍謄本は、その

内容全部を写したものです。

・除籍謄本は、戸籍の全員が死亡や他の戸籍に移ったことで除かれた戸籍の内容全部を写したものです。

・戸籍謄本や除籍謄本は、現在電算化が進んでおり、電算化されたものは「全部事項証明(書)」という名称になっています。

・戸籍制度が変更になった場合、新たな様式の戸籍が作成されますが、それまでの古い様式の戸籍を「改製原戸籍」といい、「改製原戸籍」の謄本も、先祖をたどる上で必要となる場合があります。

・戸籍は本籍のある(あった)市区町村が管理していますので、本籍が移されていれば、それぞれの市区町村から取得する必要があります。

・戸籍謄本等の取得に関するお問い合わせは、各市区町村にお願いします。
・一通ごとに手数料が必要です。
・郵送でも取得できます。

○添付書類でアイヌの血族等であることが確認できない場合、北海道アイヌ協会から先祖がアイヌであることについての情報をお尋ねすることがあります。

申請書の提出

申請書の提出先はこちら

〒060-0002

札幌市中央区北二条西七丁目
かでの二・七ビル 七階

公益社団法人北海道アイヌ協会

☎011-221-0462

四月下旬までにお送りください。

認定書の発行

五月上旬にお送りいたします。

認定書は、奨学金の必要書類提出の際、大学に提出することになります。

【参考】奨学金の内容

・無利子奨学金(第一種奨学金)
・国公立大学

月額 五万一千円(自宅外)
四万五千円(自宅)

私立大学

月額 六万四千円(自宅外)
五万四千円(自宅)

月額 三万円も選択可能

卒業後最長二十年以内で返還
ⅴ日本学生支援機構のホームページ
奨学金 <http://www.jasso.go.jp/shougakukin/index.html>

青年女性の集いを開催



令和六年度青年女性の集いを三月十五日(土)、十六日(日)の日程で、白老町にて開催しました。

今回は初日にウポポイ内にて研修を行い、若手職員との座談会の機会を設け三名の職員からそれぞれの経験に基づくお話を聞きました。

二日目には、白老町の伝統文化継承者である高橋志保子さんより、アイヌ民族博物館で五十年以上勤めてきた高橋さんの貴重なお話を伺い、大変好評を得ました。最後には参加者から自分の所属するアイヌ協会の活動発表などを行い、お互い情報交換ができて有意義な研修となりました。

○温かいご支援に感謝○

賛助会員制度に賛同して入会してくださいました企業・団体等をご紹介します。下記のとおり、団体会員が49団体183口(1口1万円)、個人会員が15名、20口(1口3千円)の申込がありました。活動資金として有効に活用させていただきます。感謝を込めて報告します。

賛助会員申込状況一覧

令和7年3月18日現在

NO.	企業・団体名	口数
1	(株)マイカントリー	1
2	小川建設工業(株)	50
3	(株)イビソク札幌営業所	1
4	共和土建(株)	1
5	(株)新興電気静内支店	15
6	部落解放同盟浅香支部	2
7	北海道通信ビル(株)	1
8	(株)不動木材店	1
9	(株)プライム	3
10	新党連帯	1
11	(株)エフビーエス	10
12	イチエイ山田建設(株)	5
13	標津漁業協同組合	5
14	日高中部森林組合	4
15	(株)登別温泉観光ホテル滝乃家	1
16	帯広市川西農業協同組合	1
17	(株)ヤマダリビング	1
18	(株)岩崎組	1
19	鶴雅グループ	1
20	フルテック(株)	10
21	宮坂建設工業(株)	10
22	アーキレックス一級建築士事務所	1
23	岩崎石油(株)	1
24	真宗大谷派北海道教務所	3
25	佐藤事務所	1

NO.	企業・団体名	口数
26	私鉄総連北海道地方労働組合網走バス支部	1
27	しずない農業協同組合	1
28	(有)キムラ造園土木	10
29	(株)りんどう	1
30	(株)フォーカート	1
31	矢田生活協同組合	1
32	(株)錦戸電気	1
33	野口観光(株)	1
34	カケガワ損害保険代理店	1
35	(株)クルーズ	1
36	(株)竹中工務店北海道支店	1
37	(株)北のハウス	1
38	(有)宅建興業	1
39	(有)大川産業	1
40	(株)大川建設	1
41	エーシー企画	1
42	(株)鈴木商会	1
43	(株)日本旅行北海道	3
44	(株)田湯産業	5
45	北海道クリーン・システム(株)	1
46	(株)札幌丸井三越	5
47	(株)新田工業	1
48	(株)北海道博報堂	1
49	(株)三鷹ホールディングス	10
計		183

※個人会員 15名 20口(60,000円)

(1,830,000円)

事務局だより

・令和六年度末の「先駆者の集い」をお届けいたします。

・昨年九月以降、アイヌ施策推進法制定後五年の見直し検討に向けた意見交換会が内閣官房主催で開催されました。道協会事務局も同行し情報共有を図ったところです。各地域の意見としてインターネットやSNS等におけるアイヌ民族否定や誹謗中傷に当たる発言、投稿を抑制する実効性のある法的措置を求める声がありました。差別禁止を明記したアイヌ施策推進法が周知されていないのも要因の一つと思われます。差別、偏見が解消されるよう継続的な啓発が不可欠です。

・令和七年度定時総会を六月八日(日)に開催いたします。

各地区協会長宛てに総会出席正会員の名簿提出について書類を发出しておりますので、ご提出をお願いいたします。定時総会の正式通知は、新年度の理事会を経たのち、総会議案書等を添えてご案内いたします。

・年度末、何かとご多用とは存じますが、各地区協会本会員の退会、入会届けがございましたら速やかにご提出をお願いいたします。